

第26回
外国人による
日本語スピーチコンテスト

2017年2月12日（日）午後1：00～4：30
ところ／県民文化センター小ホール
主 催／公益財団法人茨城県国際交流協会
共 催／茨城県

* 茨城県議会議長賞

フ シュイン (シンガポール出身)

「シンガポール人と日本人の水に対する意識」

日本は水がとても豊かな国ですね。今日ぜひ皆さんと一緒に水の大切さについて少し考えたいと思います。こんにちは。フ・シュインと申します。笠間市の小学校で英語を教えています。2015年8月にシンガポールから参りました。日本で暮らしてシンガポール人と日本人の似ているところと違うところにたくさん気づいて、とても面白いと思いました。今日は一つのことについて発表したいと思います。それはシンガポール人と日本人の水に対する意識の違いです。

まずは、シンガポールの状況を説明します。シンガポールは小さい国で、自然資源がありません。つまり、石油や水源もないし、土地も少ないのです。シンガポールにとって水は環境的なことだけでなく、命に関わる問題です。シンガポールは長年マレーシアから水を買っていて、今も大きなパイプで両国は繋がっています。しかし、水の確保をマレーシアに頼っていることは、シンガポールにとって不利なことです。もし、戦争が始まれば、他の国はその大切なパイプを攻撃するかもしれません。自分の国の水の値段や供給は自分たちでなく、外国の独断で決められる可能性もあります。

このような理由から、シンガポールは、この50年間、たくさん水の技術を研究して来ました。今「Four National Taps」4つの蛇口と呼ばれる4つの水源があります。それは雨水、輸入した水、淡水化された海水と「新生水」という水源です。「新生水」とは、実は下水を高度に浄化して再利用する水です。その技術を聞くと、なんか気持ち悪いと感じるかもしれませんね。最初、シンガポールは「下水さえ飲み水に使わなければならぬなんて」と他の国に笑われました。でも、この技術のおかげで、今シンガポールは十分な水を自分で確保できるようになりました。

小さい頃から、先生も家族も「水を大切にしてください」と何回も言いました。学校でも水を節約する方法を教えられました。家でも、蛇口をしっかり閉めないと、父はよく叱りました。日本へ来た時、水がすごくあふれている感じがしました。温泉もいっぱいあるし、トイレはほとんどウォッシュレットが付いているし、お風呂は全ての家に普及

していて、シャワーの水圧は強いと思いました。水の大切さや節水を考える必要はないようです。私の家もお風呂がありますが、もったいないので今まで2回しか入ったことがありません。歯を磨く時やシャワーを浴びる時、温水が出てくるまでピッチャーに冷たい水を貯めて、その水をほかのことに使っています。

ですから、日本の学校で子供たちが水を簡単に使っているのを見ると、心が痛みます。水が「ザーザー」と出ているのに、蛇口を開けたままぼんやりとしていたり、ゆっくり手を洗ったりしている時、私はつい手を出して蛇口を閉めたくくなります。自分の気持ちを日本語でうまく伝えられなくて、すごく悔しい思いをしました。でも、その子は悪い子でなく、ただ水を大切にすることを意識することも、その必要性もない、水の豊かな国に育ったからだと思いました。

今日の発表は皆さんにどのように伝わったのでしょうか。日本は豊かな水に恵まれて、とても幸運だということを伝えたかったです。冬の間、皆さん、もちろんお風呂や温泉を楽しんでください。そして、楽しんでいる時、水への感謝の気持ちをちょっとでも考えてもらえたら嬉しいです。ありがとうございました！